

学会発表等

—英文—

- 1) Kawamoto, Y. (1997) Population genetic studies of the Asian macaques. International Symposium on Genetics (April 1997, Taipei). Abstracts p. 10.
- 2) Perwitasari-Farajallah, D., Kyes, R. C., Kawamoto, Y. and Lelana, R. P. A. (1997) Genetic characterization of the long-tailed macaques on Pulau Tabuan. 20th Annual Meeting of the American Society of Primatologists (June-July 1997, San Diego, USA). *Am. J. Primatol.* 42 (2): 141.
- 3) Perwitasari-Farajallah, D., Kawamoto, Y., Kyes, R. C. and Lelana, R. P. A. (1997) Preliminary study of longtail macaques (*Macaca fascicularis*) on Pulau Tabuan Indonesia: protein variation and mitochondrial DNA D-loop region PCR-RFLP. 13th Annual Meeting of Primate Society of Japan (July 1997, Sapporo). *Primate Research* 13 (3): 287.
- 4) Hirai, H. (1997) Molecular cytogenetics on chromosomal differentiation in schistosomes. WHO/UNDP/World Bank 1997 Schistosome-Genome Network Meeting. (Apr. 1997, Northampton, USA).
- 5) Shimada, MK. (1997) Population Genetics of wild Old World Monkeys: the case of the Grivet Monkey (*Cercopithecus aethiops aethiops*). The Tri-National Meeting on Molecular Evolution (Related Conference of the International Conference on Molecular Biology and Evolution 1997), (June 1997, Munich, Germany).

—和文—

- 1) 庄武孝義 (1997) エチオピアの高地と低地における牛の毛色変異. 第93回日本畜産学会 (1997年8月、帯広).
- 2) 川本芳、吾妻 健 (1997) 東北地方のニホンザルにおけるミトコンドリアDNAの低変異性. 第13回日本霊長類学会 (1997年7月、札幌). *霊長類研究* 13 (3): 242.
- 3) 吾妻健、川本芳、三戸幸久 (1997) 骨および

乾燥組織に残るニホンザルの古いミトコンドリアDNA分子の分析. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月、札幌). *霊長類研究* 13 (3): 242.

- 4) 川本芳 (1997) 関東甲信越地域のニホンザルの遺伝学的多様性. 関東甲信越ニホンザルフォーラム (1997年10月、富士吉田).
- 5) 川本芳 (1998) 集団遺伝学調査からみたマカケの分布の問題点. 第42回プリマーテス研究会「アジアのサルたちは今—日本の森を考える—」 (1998年2月、犬山). プログラム・発表要旨集, p. 5.
- 6) 平井啓久、東 由香子、川本芳、後藤俊二 (1997) 地獄谷野猿公苑のニホンザルに発見された核小体形成部位 (NOR)の縦列重複. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月、札幌). *霊長類研究* 13 (3): 241
- 7) 東由香子、平井啓久 (1997) コモンマーモセット *Callithrix jacchus*におけるリボソームDNAの染色体多型. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月、札幌). *霊長類研究* 13 (3): 239.
- 8) 嶋田誠 (1997) グリベットモンキー (*Cercopithecus aethiops aethiops*) 野生群におけるミトコンドリアDNA変異. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月、札幌). *霊長類研究* 13 (3): 241.

系統発生分野

茂原信生・相見 満・高井正成・本郷一美¹⁾

〈研究概要〉

A) ニホンザルの時代的な変化に関する研究

茂原信生・本郷一美・川本 芳²⁾

縄文時代を中心として遺跡から出土しているニホンザルの分布、形態とその時代的な変化を研究している。現在出土遺跡リストを完成している。現生の東北地方のニホンザルの地域変異の研究も並行して行っている。

B) 東アジアの化石霊長類の進化に関する研究

茂原信生・高井正成・國松 豊³⁾

(1) 中国・タイ・ミャンマーなどに産出する真猿類の化石を検討し、真猿類の起源とそのアジア

における進化に関する研究をおこなっている。1997年度は中国雲南省から発見されたホミノイド化石 (*Lufengpithecus* 及び *Laccopithecus*) の観察・計測をおこない、現在そのデータ解析をおこなっている。

(2) 中国雲南省で発見されているの後期中新世の化石ホミノイド *Lufengpithecus* に見られるエナメル質減形成の様相が発掘地域によって異なっていることを見出した。現在、その成因や他の類人猿あるいは人類との出現頻度の違いや強度の違いを研究している。また、エナメル質減形成に関してはニホンザルの集団差も同時に研究している。

C) 霊長類の咀嚼器官の変化様式に関する研究

茂原信生

霊長類の永久歯の萌出機序に関する研究を行っている。霊長類の大白歯の萌出遅延現象がどのような進化的な要因で起こるのかを研究している。

D) インドネシアにおける第四紀霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生及び化石霊長類の系統・進化・分類について、詳細な研究を行った。

E) 南アメリカにおける第三紀の化石霊長類の研究

高井正成・茂原信生・Federico Anaya⁴⁾

(1) ポリビア国のサジャ地域において、後期漸新世 (約2500万年前) の化石広鼻猿 *Branisella* の発掘調査をおこなっている。*Branisella* は現在知られている最古の広鼻猿類化石であり、その形態は原始的な広鼻猿類の状態を保っている。この形態を他の化石・現生広鼻猿類と比較することにより、広鼻猿類の起源に関する問題について検討している。

(2) コロンビア国のラベンタ地域において、中期中新世 (約1500万年前) の地層の発掘調査を継続している。1997年度は、現生のティティモンキーに近縁とみられる標本を発見した。これらの化石種と現生種との関連性をもとに、現在の広鼻猿類の形態的な多様性について系統分類学的研究をおこなっている。

F) 東アジア地域における歯科人類学的調査

茂原信生・高井正成

中央アジア地域の新石器時代人から現代人を対象にした人類学的調査を継続中である。タイ国サイヨック地域で新石器時代の洞穴遺跡の発掘をおこない、日本人の祖先に関するデータの集積をはかっている。また、歯科人類学的調査としてパキスタンやモンゴルの現代人を対象に歯科疾患と歯列の印象採得をおこない、モンゴロイド系諸民族の歯科形態の比較検討と民族の成立に関する研究をおこなっている。

G) 家畜の系統とそれにもとづいた日本人の起源に関する研究

茂原信生・本郷一美

形態的・遺伝的特徴から日本の在来家畜 (特にイヌとブタ) の系統を探り、さらに人間集団の移動および日本列島への渡来について探る研究を進めている。本郷は、文部省科学研究費重点領域研究「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」の一部である「日本犬と弥生豚を中心とする在来家畜の渡来と系統に関する考古学的、分子遺伝学的研究」に参加している。

H) 家畜化の研究

本郷一美

西アジアにおける家畜飼育の開始と牧畜の発達を解明するため、イスタンブール大学において、トルコ東南部にあるチャユヌ遺跡の新石器時代初期の文化層から出土した哺乳動物骨の同定と計測をすすめている。

〈研究業績〉

論文

—英文—

1) Hongo, H. (1997) Patterns of Animal Husbandry, Environment, and Ethnicity in Central Anatolia in the Ottoman Empire Period: Faunal Remains from Islamic Layers at Kaman-Kaleh öyük. *Japan Review* 8: 275-307.

1) 1997年12月1日着任 2) 集団遺伝分野

3) 形態進化分野 4) COE外国人研究員 (1997年12月20日～1998年3月19日)

—和文—

- 1) 増田雄一・茂原信生 (1997) 日本産食肉目の種名の検討. 哺乳類科学 37(1): 87-93.
- 2) 高井正成・陸慶五・國松豊・茂原信生 (1998) 東アジアにおけるホミノイドの進化—中国雲南省から産出する *Lufengpithecus* をめぐる問題点—. 霊長類研究 14: 1-18.

報告・その他

—英文—

- 1) Aimi, M., & Bakar, A. (1997) Meaning of primate distribution in West Sumatera. Annual Rep. FBRT Project, No. 3:198-212.

—和文—

- 1) 茂原信生・松村博文 (1997) 篠ノ井遺跡 (長野市) 出土の人骨 (弥生時代～平安時代)。「篠ノ井遺跡群」, 成果と課題編, 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16, 長野県教育委員会, 長野県埋蔵文化財センター pp. 218-245.
- 2) 櫻井秀雄・茂原信生 (1997) 篠ノ井遺跡出土の動物遺存体。「篠ノ井遺跡群」, 成果と課題編, 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16, 長野県教育委員会, 長野県埋蔵文化財センター pp. 246-274.
- 3) 茂原信生 (1997) 石川条里 (微高地) 遺跡 (長野市) 出土の古墳時代ならびに中世の人骨と獣骨. 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15, 長野市内その3—石川条里遺跡第2分冊, 日本道路公団名古屋建設局, 長野県教育委員会, 長野県埋蔵文化財センター pp. 402-417.
- 4) 茂原信生・西澤寿晃・松村博文 (1997) 伊勢宮遺跡 (塩崎遺跡群: 長野市) 出土の弥生時代人骨. 長野市立博物館紀要 4: 1-26.
- 5) 阿部修二・茂原信生・芹沢雅夫 (1997) 谷口山古墳出土の人骨について. 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第37集「久部愛宕塚古墳・谷口山古墳・御蔵山古墳」, 宇都宮市教育委員会 pp. 43-46+Pl.6,7.
- 6) 相見満 (1997) 学名の話 (30) ジャワ原人物語 (2) 発見への道. モンキー 275: 9-12.
- 7) 相見満 (1998) 学名の話 (31) ジャワ原人物語 (3) デュボアの苦悩. モンキー 276: 8-11.

- 8) 高井正成 (1997) 中国の不思議な鳥. 東京新聞, 1997年7月29日夕刊.
- 9) 高井正成 (1998) 人類誕生前夜. Newton, 98年3月号.

書評

—英文—

- 1) Takai, M. (1998) Book Review: Adaptive Radiations of Neotropical Primates. Primates 39 (2): 253-254.

翻訳

—和文—

- 1) 本郷一美 (1997) 「動物の考古学」 (James Rackham著, Animal Bones, British Museum Press 1994). 大英博物館双書, 東京: 学芸書林.

学会発表等

—英文—

- 1) Takai, M., Anaya, F., Shigehara, N., and Setoguchi, T. (1998) New specimens of *Branisella boliviana*: evidence for a primitive platyrrhine. Am. J. Phys. Anthropol. Suppl. 26: 215.

—和文—

- 1) 茂原信生 (1997) 霊長類の顔とヒトの顔. 日本人類学会・顔学会公開講演会 (1997年11月, 東京).
- 2) 茂原信生・高井正成・百々幸雄 (1997) 岩手県風穴洞穴から出土したニホンザル. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月, 札幌). 霊長類研究, 13(3): 247.
- 3) 茂原信生・高井正成・瀬戸口烈司・F. Anaya (1998) 南米コロンビアの中期中新世のティティ類の化石. 日本古生物学会1998年年会 (1998年1月, 小田原), 講演予稿集p.60.
- 4) 相見満 (1997) スマトラのコノハザルの分布が意味するもの. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月, 札幌). 霊長類研究 13(3): 260.
- 5) 高井正成・茂原信生・瀬戸口烈司 (1997) 後期漸新世の広鼻猿化石にみられる下顎骨縫合線の意味. 第13回日本霊長類学会大会 (1997年7月, 札幌). 霊長類研究 13(3): 248.
- 6) 高井正成・茂原信生・F. Anaya・瀬戸口烈司

(1998) 最古の化石広鼻猿類 *Branisella* の新標本とその復元. 日本古生物学会1998年年会(1998年1月、小田原). 講演予稿集p.59.

7) 本郷一美 (1998) カマン・カレホユック遺跡 IIb層出土の動物遺存体. 1997年度トルコ調査報告会 (1998年3月、東京中近東文化センター).

講演

1) Anaya, F. 「南米ポリビアの地質と産出する第三紀から第四紀の哺乳類化石」山形大学理学部、1998年2月13日(金) 10:30~11:30.

2) Anaya, F. 「ポリビアについて -人々のくらしと化石-」愛知県北設楽郡東栄町立東栄中学校、1998年2月22日(土) 10:30~11:30.

社会生態研究部門

生態機構分野

杉山幸丸・森 明雄・山極壽一¹⁾・松村秀一

〈研究概要〉

A) 西、中央および東アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極壽一・Michael A. Huffman²⁾・竹元博幸³⁾・松原 幹³⁾

全頭個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国ボソウの野生チンパンジーについては、野外実験も含めた道具使用行動の詳細な観察と地域間比較の分析・整理を進め、とくに「単一目的に複数種類の道具使用」をTool-Compositeと名付けてまとめた。道具を用いた採食行動は主要な果実が不足する季節によくおこったが、その基礎となる生息地の食物生産量、植生の大規模調査をおこなった。また、初産年齢の低下、老齢雌の活動、順位低下雄の遊動パターンの変化と雄の移出入など、個体群動態についても長期記録の整理・分析を進めた。

ガボンのプティ・ロアング保護区において、同所的に生息するゴリラとチンパンジーの生態調査を行い、林床植生が貧弱な環境で両種類人猿が広い遊動域を利用していることを確認した。遊動パターンはゴリラとチンパンジーで異なり、ゴリラはゾウを避ける傾向が強い。果実のフェノロジーの調査も平行して進めており、環境変化に両種類人猿がどう対応しているかを調べている。

さらにアフリカ各地で類人猿の自己治療行動と採食品目の薬効作用について研究した。

B) ヒヒ類の研究

森 明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標にして、エチオピア南部アルシ州のゲラダヒヒのポピュレーションの調査を行っている。エチオピア北部の集団とは隔離されたゲラダヒヒの小さいポピュレーションの生態的特徴を明らかにしようとしている。ユニット構成の不安定性、ユニットのバンドへの所属のあり方を生態的変数を考慮に入れながら検討している。また、今年度は、サウジアラビアのマントヒヒの予備調査を行った。サウジアラビアでは、人が捨てる残飯やゴミに集まる人との共生群が大きな問題となっている。このような群を対象にし至近距離から観察を行った。メスの自由度が高く、エチオピアのマントヒヒとはかなり異なった社会構造を持つことが予測された。

C) 東南アジアに生息する霊長類の生態および社会行動に関する研究

松村秀一・岡本暁子³⁾

マカクの社会行動の進化に関する比較研究の一環として、インドネシア・スラウェシ島に生息するムーアモンキーの野外研究を続けている。前年度に引き続きオスのラウドコール等に関する資料を重点的に収集した。また、野外観察と結びつけたゲームモデルの提出、個体の空間分布に関するシミュレーション研究をおこなった。さらに、タイ・ベトナム・マレーシアにおいて、霊長類の分布と生態について広域的な予備調査をおこないその結果をまとめた。

D) ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森 明雄・山極壽一・田中伊知郎²⁾・

Joseph Soltis⁴⁾・Vanessa J. Hayes⁵⁾・

栗田博之³⁾・松 原幹³⁾・早川祥子³⁾・藤田志歩³⁾

ニホンザル個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、宮城県金華山、長野県地獄谷、大分県高崎山、宮崎県幸島、鹿児島県屋久島の自然群および餌づけ群を対象に研究を進めて